



要請行動で発言する井上議員 (=19日。県庁議会棟内)

県内の日本共産党 地方議員団が 県へ要請 軍拡路線の危険と原発政策の矛盾をただす (補聴器助成、鳥獣被害なども各自治体議員より)

日本共産党地方議員団は19日、「2025年度対県要請」を県議会棟で実施しました。全県の地方議員が住民要求を持ち寄り、9時から16時まで県庁各課へ真剣に要請と質疑を行いました。薩摩川内市からは井上勝博議員が参加し、軍事基地化の危険性や川内原発の乾式貯蔵問題など、県民の安全に直結する課題について強く求めました。

**相手国を刺激しない外交が安全の道
県内が攻撃対象になる危険を告発**

県内で軍事基地化が進む中、井上議員は「相手国を刺激しない外交こそ県民の安全を守る道だ」と強調。国が「厳しい国際情勢」を理由に、さつま町の弾薬庫建設や川内港の特定利用港湾化を進めていることに対し、軍事施設が増えれば国際法上の攻撃対象となる危険が高まると指摘しました。また、馬毛島の大規模基地化や高市首相の挑発的発言も挙げ、こうした国の姿勢が県民の不安を増大させていると批判。「軍事的増強は『こちららも戦争の準備をしている』という危険なメッセージだ」と述べ、軍拡路線の中止を強く求めました。

県民の命を守るためにー県として国に明確な意見を

県は「住民の安心安全の確保を国に求める」と答弁しましたが、軍拡路線を正す姿勢は示さず。井上議員は「戦争を望まないという明確なメッセージを、県として国に求めるべきだ」と迫りました。

**再処理頼みは“幻想”
川内原発の乾式貯蔵問題**

続く川内原発の乾式貯蔵問題でも井上議員は「再処理が動けば解決という説明は成り立たない」と指摘。全国で1万9000トンの使用済み燃料が滞留し、六ヶ所再処理工場は27回も延期。動いたとしても処理能力年間800トンでは追いつかない現実を示し、乾式貯蔵の安全性と搬出の見通しをただしました。県は「2026年度

竣工を前提」と従来方針の答弁を繰り返しましたが、井上議員は「県民の安全確保を最優先に、実態に基づく姿勢への転換」を求めました。

【その他 共通項目】

- ①生活保護 ②国民健康保険制度 ③補聴器購入助成制度の実現を ④介護保険制度 ⑤教育問題 ⑥不登校児童・生徒対策 ⑦雇用・労働 ⑧水俣病被害者救済 ⑨平和と安全 ⑩災害復旧と被災者支援 ⑪鳥獣被害などで要請しました。

**核のゴミ捨て場は御免だ！
川内原発・乾式貯蔵 反対キックオフ集会**

11月24日(月・祝) 11:00~11:30
川内駅西口広場集合
(終了後) 市内で街頭・戸別アンケート
主催 乾式貯蔵を考える会(向原祥隆代表)
お問合せ 080-3996-0237 (井上)

六ヶ所再処理工場は27回延期。核燃サイクルは破綻しています。行き先なき乾式貯蔵は原発延命策であり、川内・鹿児島を“核のゴミ捨て場”へ導く危険な道です。未来のために、ぜひご参加を。

※今週号「こちら暮らしの相談所」は休みます。

議員定数等調査特別委員会

「月額3万3千円増」めぐり議論続く

市民アンケートの実施が今後の焦点に

17日、薩摩川内市議会の議員定数と議員報酬のあり方を検討する議員定数等調査特別委員会が開かれ、報酬を合併当初の水準へ「復元」すべきだとの意見と、市民の理解を得ながら丁寧に進めるべきだとの意見が交わられました。市民アンケートや行政視察をどう位置づけるかが、今後の大きな課題となっています。日本共産党の井上勝博議員も委員として出席しました。

「まず元の額に戻すべき」との主張

一部委員からは、定額報酬を40万3千円に「戻すべきだ」との意見が出されました。そのうえで、物価高など現在の状況に応じた議論を後段で行う「二段階案」も示されました。(二面へつづく)

「月額3万3千円増」めぐり議論続く

市民に説明できる根拠が必要

これに対し、「どこを基準に“復元”と

言うのか、市民に説明できる理由が求められる」「今の暮らしの実態をふまえ、総合的に検討すべきだ」と慎重意見も多く出されました。若い世代が議

境の必要性にも触れつつ、市民の納得を得る進め方が求められています。

井上市議「市民の声を確かめながら」

前回の特別委員会で、市民アンケートを行ってきたとの結論が、出されています。井上市議は、「市民の声や暮らしの感覚を

丁寧を受け止めながら議論することが大切だ」と述べ、開かれた議論を求めました。他市の行政視察につ

いては実施の可否を含め、委員長・副委員長に一任することとなりました。報酬や定数の議論は各会派が持ち帰

り、次回の委員会で引き続き協議が行われます。

エプロンおばさんの簡単クッキング (683)



ニンジンと油揚げのさつと炒め

材料（1人分）.....
ニンジン ½本（100g）、油揚げ1枚、
A(酒・みりん・しょうゆ各大1)、ごま油小2、白炒りごま少々

作り方

- ①ニンジンは細切りにする。油揚げは油をふき取り、細切りにする。
- ②フライパンにごま油を入れて中火で熱し、①を入れて炒める。しんなりしたらAを入れて汁気がなくなるまで炒め、煎りごまを加える。

No. 60



シネマ太郎の映画評と案内 女性の休日 (2025 公開)



女性の休日



TOKYO タクシー

映画が始まると、そびえ立つ氷山、凍った大地の猛吹雪、壮大な滝が映し出されます。北圏に近い国、アイスランドの大自然です。今から50年前、1975年10月24日、この国の女性たちが仕事や家事をいっせいに、休む、という出来事が起こりました。男女の賃金格差、人事の差別、家事が労働とみなされないなど我慢を強いられてきた女性たちの抗議なのです。そんなことがあったとは知りませんでした。当時、日本では報道されたのでしょうか。国の20か所以上で女性だけの集會が、一斉に開かれます。街頭広場は見渡す限りの女性。電話は不通となり、飛行機は欠航、工場は休業、学校は休校に。社会の動きが止まるのです。この「女性の休日」を推進した女性たちが思いを語るドキュメンタリーです。今や高齢となった女性たちが楽しそうに当時の気持ちを述べています。「男性が優っていたのは女性が優位に立つこと」、「憎んでいたんじゃない。少し変わってほしかった」。これを機にアイスランドは変貌を遂げていきます。現在、ジェンダーギャップ指数は16年連続1位（日本は78位）（2024年、IMRが国中）。当時、「大きくなったら船長になりたい」、「弁護士になって弱い立場の人を助けたい」と話す女の子に男性たちは何と言ったのか。このふたりの女の子がその後、どういった人物になったのか。驚きで胸が高なりました。私が見たのは月曜の午後。観客20人ほどのうち男性は私ひとりのような感じでした。男性こそ、みるべきと思いませんか。ニニニまで。さて、気になる次の映画は、「トクヨタクシー」(TOKYO、天文館シネマパラダイス)です。



←中俣先生のブログはこちら

中俣先生のつれづれなるままに (814)



私は文科省から授けられる権力の行使が怖くて、校長にならなかつた。それより子どもたちと一緒にいる方がずっと楽しかった。それこそ毎日のように子どもたちとはしゃぎ回っていた。だから、権力を執念というか、もぎ取るように手にした高市さんのはしゃぎようを見ると、感心しながらもなんだか違和感を感じる。あの笑顔は、普通だつたらすと胸に届くのに、ガラスにさえぎられたかのようにすんなり心に落ちてこない。まるで国民そっこの高市さん一人はしゃいでいる感じである。極めつけは、トランプ大統領といっしょに、米軍の前にいる姿だつた。ウサギのようにびよんびよんはねている。日本経済を世界の中心に置くとか言っていたが、本音は自分自身が世界の中心にいたいのだと思つてしまう。それともう一つ、トランプさんに媚びる姿だ。どうしてもトランプさんのように世界の中心にいたいのがために、腰にまとわりついているとしか見えない。そのためかどうか知らないが、トランプさんにノーベル賞を言い出してはいる。世界を混乱の渦に巻き込み、ジェノサイドのイスラエルを後ろからけしかけているトランプ大統領にノーベル賞をとば、よく言えたものである。核事件の再開を指示したトランプさん。それでノーベル賞と言うのか高市さん。ふりまく笑顔も、国民を包み込むようなたわりの笑顔であつて欲しい。これって、校長にならなかつたもののひがみと取るか高市さん。(詩愛好家)